

第2回 2009年8月出発 参加者

●細谷 健太さん、ホスト：韓国光州科学技術院

1. 応募したきっかけ

私が所属する研究室の指導教官の紹介で、第2回 Summer Institute(韓国短期派遣事業)について知りました。ホスト先の研究室とは6年前から交流があり、今回の韓国派遣事業を通じて研究を行うことでより深い交流ができると思い、応募しました。また、海外で研究を行うことで、研究方針や研究方法など違いを知ることができる上に、学生との交流によって若者の文化を学ぶことができる絶好の機会だと思いました。

2. 事前準備

ホスト先の研究室の教授と学生と面会する機会がありましたので、研究内容に関する打ち合わせや設備等の確認、宿泊施設などのお話をしました。次に同じ研究を行う学生とメールで、設備や研究方法について議論して、限られた期間で研究がスムーズに行えるように準備しました。また学生や教授と英語で話すため、英会話の教室に行くなどして英語の勉強を重点において準備をしました。

3. 現地研修

語学研修では短い時間でありましたが、韓国語を学ぶことができ、挨拶や日常会話を覚えることができました。ホスト先の学生の前で使うことで話題になり、新たな表現を教えてもらいました。文化研修では、板門店に行くことができ、朝鮮半島の歴史や韓国・北朝鮮の関係を間近で見ることができました。

4. この研修を通じて得たもの

この研修を通じて得られたものは三つあります。

はじめに、韓国の学生と一緒に生活することで、文化・価値観の違いを体験できました。年長者への接し方や礼儀作法について話せたことは、お互いの理解に役立ちました。次に、ホスト先での研究を通して、今後の私の研究に必要な技術や手法について学び、韓国の学生と議論や実験を共にすることで、お互いの知識・経験・技術をシェアすることができ、今後の共同研究の基盤を作ることができました。

最後に、この研修で得た最大の財産は、研究室のひとと深い交流を築けたことです。特に一緒に研究を進めた学生とは、研修中のほとんどの時間を一緒に過ごしていたため、「ヒョン(意味:兄弟)」と呼んでくれと言われるほどに信頼関係を築くことができました。また、彼の実家に招待されて家族から手厚く歓迎され、彼の通訳を通じて家族の方とお話しできたのは貴重な体験となりました。

この交流を通じて、研究以外に学んだことが多く、大変有意義な時間を過ごすことができました。

5. 参加する人へのアドバイス

今回の短期派遣中、学生や先生との会話はすべて英語で行いました。

私は英語が苦手であり、研修に向かうまでは不安しかありませんでしたが、実際に行ってみて、稚拙な表現ばかりではありましたが何とか会話をして意思疎通が図ることができ、短期留学の後半には、日常的な会話を難なく話せるようになりました。語学力に不安があっても、まずは挑戦してみることが大切だと思います。

また韓国の学生はお酒を飲むことが大好きで、たびたび飲みに行くことが多いです。観光で知ることができない流行の飲み方や文化を体験できる絶好のチャンスだと思います。



